

The efficacy of medium-to long-term anti-TNF- α antibody-based maintenance therapy in Behçet's disease patients with intestinal lesions

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神林, 玄隆 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032795

主論文の要旨

The efficacy of medium- to long-term anti-TNF- α antibody-based maintenance therapy in Behçet's disease patients with intestinal lesions

ベーチェット病の腸管病変に対する抗TNF- α 抗体製剤の中長期的維持効果の検討

東京女子医科大学 消化器内科学教室

(指導：徳重克年教授)

神林 玄隆

Internal Medicine 2020;59(19):2343-2351 に掲載

DOI: 10.2169/internalmedicine.5000-20

【要 旨】

ベーチェット病(BD)に対し抗TNF- α 抗体製剤が臨床の場で使用されている。本研究はBDの腸管病変および腸管以外の病変に対する抗TNF- α 抗体製剤の中長期的維持治療の有効性を評価することを目的とした後ろ向き研究で、2003年から2018年6月までに腸管病変に対して抗TNF- α 抗体製剤を導入したBD20例を対象とした。有効性は内視鏡所見と臨床症状の組み合わせで評価し、寛解維持治療に移行した症例の維持治療継続率やPrednisolone (PSL)の使用量の推移と、腸管以外のBD症状の有無を評価した。維持投与できた17例の抗TNF- α 抗体製剤による治療継続期間は平均 257.2 ± 132.1 週であった。投与中止が3例(18%)、二次無効が1例(5.9%)、寛解を維持出来たのは13例(76%)であった。累積維持率は2年で94%、4年で87%、6年で72%と既報より高い結果であった。腸管病変が寛解を維持した13例の平均PSL使用量は有意に減少した(pre: 13.4 ± 2.16 mg/day, post: 0.92 ± 0.47 mg/day, $p < 0.0001$)。また、13例中5例(38%)で腸管の寛解維持治療中に腸管以外のBD症状を認めた。BDの腸管病変に対する抗TNF- α 抗体製剤の中長期的維持効果が確認された。一方、腸管病変が良好な期間に腸管以外に活動性のBD症状も認められ、注意が必要である。